

# 日々の暮らしの継続

今よりもっと良くなるために

食事

自立支援

機能向上

香川県 高松市

通所介護事業所・守里苑デイサービス

生活相談員・佐久間 景子

白藤 誠

和泉 安津砂

[syurien@syurikai.com](mailto:syurien@syurikai.com)、FAX 番号 087-845-3810

今回の発表の施設  
またはサービスの  
概要 10p

守里苑デイサービスの定員は45名で、365日年中無休で利用を提供している。  
住み慣れた地域で安心して暮らせるように、生活リハビリを中心に利用者への  
自立支援を行っている。

## <取り組んだ課題>

生活することは選択の連続である。人は自己決定をすることにより、達成感を得てそれが自信になり、身体機能向上に繋がる。生活の中で、食事を摂るということは切っても切れない存在である。食を通じて、どうすれば身体機能向上に繋げることができるか、取り組んだ結果をここに報告する。

## <具体的な取り組み>

取り組み前

### 【食事提供】

・お盆に料理が綺麗に乗っている状態で、職員が上げ膳据え膳していた。

### 【食堂の様子】

・当時、同じ部屋で食事、レクリエーションが行われており、利用者の動く機会は入浴と排泄時だけだった。

・「早く食事を持ってきて」と職員に声を掛け、食事を待つという受身の体勢の利用者の姿があった。

職員ミーティングで、以下の点について話し合った

- ① 食事を楽しめる雰囲気を作る。
  - ・与えられるのではなく、自ら選んで頂く。
- ② 利用者の「～したい」という気持ちを引き出す
  - ・出来ないことに目を向けるのではなく出来ることを支援する。

取り組み（1回目）

- ・食事をするスペースと利用者が過ごすスペースをわけた。
- ・食事提供の方法をセルフ形式に変更した。
- ・利用者が調理した1品を昼食時に提供した。

取り組み（2回目）

- ・メニューを選択できる環境を作った。
- ・腕が不自由な方でも、足が不自由な方でも料理が運べる台車を用意した。

具体的な事例を一例挙げる。

### 【事例】

大村さん（仮名）女性  
独り暮らし 介護度3  
デイサービス週2回利用

利用当初 車イス使用（自操不可）

在宅酸素を使用

他者との関わりを極端に嫌う

<活動の成果と評価>

取り組み（1回目）

- ・食事するスペースを確保することで、利用者が食堂とフロアを行き来するようになった。
- ・利用者が調理することや料理を装うことがきっかけになり、残存能力を維持向上できた。

取り組み（2回目）

- ・メニューの選択肢が増えることにより、受身の体勢から、積極的に食事を摂ろうという体勢に変わり残食が減った。
- ・歩行の不安定な利用者が台車を利用することで、自分で好きなところに行って食べることができるようになった。

大村さん（仮名）女性

- ・他の利用者に美味しいものを食べさせようと、立ち上がり調理をする姿を見かける。
- ・要介護度が改善した。（介3→介2）

<今後の課題>

今後もさらなる自立支援の場を広げるために、食事だけではなく、デイサービス利用中に自分でしたいことを選べるように支援していくことを検討したい。